

リレー隨筆

行ってみましたNew York

鹿児島大学病院 研修医1年目 | 前田 拡

初めまして。今月のリレー隨筆を担当させていただきます鹿児島大学研修医1年目前田拡と申します。今回は、自分が卒業旅行で行ったNew York一人旅について隨筆を書かせていただきます。自分の記憶に残った不思議な出来事について、ふらふらと書いていこうと思います。

2023年3月、早春の寒さが残る中の旅行でした。日本から片道13時間、羽田空港からニューヨークにたどりつきました。

ニューヨークの街並み

まずはバッテリーパークからニューヨーク周遊バスに乗ります。まずは街の概観をみておきたいですから。天気は快晴、屋根がない2階建てのバスに乗り、初めてのブルックリン、New York初日の予定でタイムズスクエアから遠ざかっていることは気になりました。多くの音楽や映画の舞台になっている街、New York。どの店の看板も、どの落書きも映画に出てきそうです。マンハッタンブリッジ、ブルックリンブリッジ、どちらが古くて、どちらが歩いて。ブルックリンの街はキラキラとはしておらず、小さなお店がストリートサイドを埋め尽くしている親しみやすい街でした。

バスがあまりに寒くて、わざわざ近くのユニクロでheat techを買いました。ほんとうに暖かかったです。



ニューヨークはアートの街

みなさんご存じかも知れませんが、New Yorkはアートの街、美術館や博物館、美術学校がちらほらあります。今回の旅行でも、グッゲンハイム美術館、メトロポリタン美術館、ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク市民博物館、様々な「館」に行きました。たくさん見すぎてまったく覚えていませんが、僕の記憶の中には確かに刻まれています。教科書でしか見ることのないゴッホ、マネ、ゴーギャン、モネの睡蓮も。ゴッホのひまわりの絵、一枚は日本にあるなんて驚きです。古典的な名作から、新進気鋭の現代アーティストの作品まで、瞬間



瞬間に身を削った者たちの作品は足が止まってしまうものばかりでした。時折日本人作家の作品が展示されていたことはうれしかったです。博物館ははく製や

恐竜の骨格標本であふれています。民族衣装もたくさんあって、これ全部もともと持った人から奪ってきたのかなとかいらぬことを考えてしまうくらい。ニューヨークになんでも集めたいと思った人がいたんだと思います。

ライオンキング！

みなさんご存じかもしれません、ブロードウェイはニューヨークにあります。タイムズスクエアから徒歩5分、週末の行列に適当に並べば、なにかしらのミュージカルを見る事ができるでしょう。自分は、ライオンキングのチケットを予約してみました。ありがたいことに席は前から三番目のど真ん中。筋骨隆々とした役者たちの表情、流れる汗までばっちり見えました。ムファサが死んで、シンバが生まれ、シンバが大人になる。話の予習ゼロで観覧に行った自分に詳しいことはわかりませんでしたが、それでも「板の上で人が演技している」ということに感動しました。サバンナの草の役をやっていた方が最も印象に残っています。手間暇かかっているものというのは、人の心に訴えかけてきますね。



Village Vanguard

せっかくニューヨークに来たんだから、危ないと言われたって夜遊びがしたい。

ジャズクラブくらいなら、怖い人もいないと思って飛び込みました。飲めない酒を頼んで、慣れたふりして隣の席の人と話したりしていたらあっという間にshow time。ステージの上には、自分とはまったく違う場所、違う世界で、違う時間の使い方をしてきたおじさんたちがたくさんいて…ニューヨークの街で楽器を弾いてお金をもらうなんて、とんでもない人たちだったんだと思います。また行きたいですね。



以上、自分のニューヨーク旅行で印象に残ったことをつらつらと書かせていただきました。この他にも、鹿児島のアルバイト中に知り合ったニューヨーク在住の方に再会を果たしピザをごちそうしてもらったり、不思議なおいのする公園で動けなくなったり、タイムズスクエアでCDを売りつけられて逆ギレしたり、バイクメッセンジャーのふりをしながらニューヨークの街を自転車で走ったり…いろんな面白いことがあったので、研修病院で僕をみかけたら、ぜひ声をかけてくださいね。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

次号は、鹿児島大学病院／田畠祐樹先生のご執筆です。
(編集委員会)